

ギリシヤは「農村」を観光の目玉に

遺跡類みでは
ダメだ(A F
P時事)

長崎市の市街地には空き店舗がない。大分県臼杵市はアーケードを取り払って活気を取り戻した。ギリシヤは農村で観光客を増やしている。共通しているのは、新しいことをやらず、「昔ながらの知恵」で成功していること。日々の仕事にも通じる話だ。



独自性は「過去」にある

競争するな！

昔ながらの知恵が

成功のカギ

ギリシヤ政府観光局のホームページを開くと、「エトワール」の案内が飛び込んでくる。数々の世界遺産とエーゲ海で知られるギリシヤだが、実は国土の70%は山岳地帯。その不便な農村を逆手に取り、今後の観光事業の柱に据えよう」と計画しているのだ。



内閣官房地域活性化伝道師で、「『地元』の力」(NNT出版)を上梓した金丸弘美氏が言う。

「オテル・ドウ・ミクニの三國清三さんがへギリシヤでスローフードと言ったらダメですよ」と話している。スローフードとは80年代半ばにイタリアで始ま

った動きですが、よく考えたら、ギリシヤ人は誰に言われなくても数千年前からスローフードをやっていた。私は三國さんに「要するに田舎料理ですよ」と

例えは、EJは日本のような戸別所得補償ではない、農家が納屋や牛小屋を改造して民宿にすることに

長崎市は「さるく」で空き店舗解消

成功のキーワードは「昔ながらの知恵」だ。

兵庫県豊岡市は、コウノトリがエサをついばむ田んぼで復活した。無農薬だと害虫の発生が心配だが、何

るのだからハまるのも当たり前。日本人観光客は30%も増えたという。

「日本も、町おこしで地域活性化が叫ばれています。外部識者や行政、コンサルタントの指導をうのみ

の懸案だったカメムシはカエルが食べてくれる。無農薬農業は収穫量が減るが、

水俣市は、過去の公害を教訓に日本で初めてゴミの分別回収を行った自治体だ。環境都市として全国を

リードしている。大分県臼杵市は、商店街のアーケードを取り外した途端に活気が出た。昔ながらの景観に戻した結果、大林宣彦監督が臼杵を舞台に「なごり雪」(22才の別れ)という映画を撮影している。

長崎市は「さるく」(さらさら歩く)で観光客を増やした。客は坂ばかりで不満どころか、喜んで歩く。

逆に農水省の補助金で全国に雨後のたけのこのように出来ている「道の駅」は、たいした特色もなく、税金を無駄にして終わるだろう。

雨後のたけのこでは負ける

でも、その一端を紹介しています。日本の識者は経済発展というと、大企業ばかりに目を向けますが、イチローのバットを作っているのは岐阜県養老町の中小企業だし、社員90人ほどの松山市の金属加工会社の技術

値が売れば、多少高くても商品は売れます。(金丸氏)

中国に工場を移してコストを下けても、低価格競争では韓国や台湾に確実に負ける。アナタの会社が創業

時目指したものは何だったのか。過去を振り返ってみる手はある。